

# 2023-24 WEEKLY BULLETIN



国際ロータリー 第2660地区 箕面ロータリークラブ



世界に希望を生み出そう

会長 黄堂 泰昌 幹事 河野 優作 広報委員長 水島 教絵

国際ロータリー会長 ゴードン R. マッキナリー

国際ロータリー第2660地区ガバナー 延原 健二

例会場 箕面観光ホテル 例会日 毎週木曜日 18:30~  
事務局 〒562-0006 大阪府箕面市温泉町1-1 (箕面観光ホテル内) Tel:072-724-2781 Fax:072-724-1786  
Email : mino-orc@abeam.ocn.ne.jp HP : <http://mino-orc.net/>

NO.2567

2023年10月12日発行

## ●今週の例会プログラム

2023年10月12日(木) 第2575  
卓話 青少年活動委員長 高橋太朗会員

『箕面観光ホテル』

## ●次回の例会プログラム

2023年10月19日(木) 第2576回例会  
モレロス大学留学生との親睦会

『箕面観光ホテル』

## ◆前回例会◆

### 出席報告

- ・2023年9月28日(木) 第2574回  
会員数 35名 出席者 20名 (出席率 60.60%)

## ◆会長挨拶◆

黄堂 泰昌

「暑さ寒さも彼岸まで」と言う通り、朝夕めっきり涼しくなってきました。 酷暑が続いた夏からようやく秋の気配が感じられる今日この頃です。

さて、今月はロータリーでは「基本的教育と識字率向上月間」です。 識字率とは、文字の読み書きや文章を理解できる能力がある人の割合のことです。 世界では識字率の低い国が多く存在します。 読み書きのできない15歳以上の人の数は、世界に約7億7500万人。 これは、全世界の成人の17%にあたります。 しかも、学校に通っていない子どもは世界に6700万人いると言われています。 地域社会が自力で学校を支え、教育における性差別を減らし、成人の識字率を高められるよう支援することが、ロータリーの目標です。 アフリカ諸国や経済発展途上国の中には、識字率が50%に満たない国もあります。 その背景には、十分な教育を受けられる環境が整わない、女性は勉強をする必要がないといった女性差別、戦争や紛争のある地域での学校閉鎖などの要因があります。 国際ロータリーのウェブサイトではロータリーが世界中でどのような活動を行っているかを知ることができます。 驚くことに、米国デトロイトでは、成人の半数以上が十分な識字力をもたないと言われていて、地元の非営利団体と協力して、成人への個人指導を行う講師を募集し、研修を実施したという活動が報告されています。 移民や貧困層が十分な教育を受けてい

ない背景などが考えられます。 おそらく日本でも識字率は100%には満たないのであります。 というのも、家庭の事情や病気、不登校やひきこもりなどの理由で小学校に通えない子供がいることがあるのでしょう。 将来、社会生活や就職など多くの面でハンディキャップを背負わないような社会全体での取り組みが必要となっています。

ロータリーでは、世界で「基本的教育と識字率向上」のための様々な活動を行っています。

- ・基本的教育と識字能力をすべての人びとに与えるために地域社会の力を高めるプログラムの支援
- ・成人の識字率の向上
- ・教育における男女格差を減らすための活動
- ・基本的教育と識字率向上に関連した仕事で活躍していくことを目指す専門職業人のための大学院レベルの奨学金支援  
これらは、グローバル補助金の申請をしてクラブでも行うことも出来ますし、ロータリー財団への寄付として支援する事にもなります。

ロータリー財団へのご寄付をよろしくお願ひいたします。

ちなみに、今日9月28日は「パソコン記念日」だそうです。 何でもかんでも記念日があるもんだと感心させられます。 ワープロやメールなどにつかう文字変換ソフトの進化のおかげで、めっきり文章を手書きすることがなくなってしまいました。 おかげで、いざ漢字を書くとなると、戸惑ってしまうことがあるのは私だけでしょうか？ 漢字の読み書きについては、またの機会にお話しすることにします。

最後に、今週末は「箕面まつり」です。 社会奉仕委員会、親睦活動委員会の皆さん、事務局永島さん、ご準備有難うございます。 クラブ全体で楽しく奉仕活動をしたいと思っております。 お弁当やアルコールもご用意いたしますので、皆さんのご協力をよろしくお願ひいたします。

4つのテスト 言行はこれに照らしてから

01 真実かどうか

02 みんなに公平か

03 好意と友情を深めるか

04 みんなのためになるかどうか

## ◆幹事報告◆

河野 優作

## 【10月の例会】

- 5日 休会 箕面まつりの振替  
 12日 卓話 米山奨学会委員長 林会員  
 19日 卓話 国際奉仕委員会  
     モレロス大学留学生招待 親睦会  
 26日 卓話 Rotary財団委員長 木村知也会員  
 •9/30(土)、10/1(日) 箕面まつり 13:00~20:00  
     出来るだけ参加してください

・サンバーズ後援会 笹島様より  
 『プレシーズンマッチ・サンバーズ箕面後援会決起会』開催のお知らせ

## ◆SAA報告◆

副SAA 林 たかみ

## ニコニコ

青敬祐会員：林さん、卓話よろしく  
 西脇 悟会員：早くも9月終わりですね  
 黄堂泰昌会員、浦収会員、山下正和会員  
 米山奨学会

黄堂泰昌会員、浦収会員、山下正和会員  
 ロータリー財団

山下正和会員

## ボリオ

前田建司会員：林委員長、卓話宜しくお願ひいたします  
 道林侑輝会員、林たかみ会員、片山秀樹会員、河野優作会員  
 木村知也会員、黄堂泰昌会員、今野翔太会員、森田雅之会員  
 西田泰会員、西脇悟会員、芝野弘三郎会員、武久智憲会員  
 上島一彦会員、浦収会員、山根ひとみ会員

## 恒久基金



## ◆卓話◆

米山奨学会委員長 林 たかみ

本日は米山奨学事業の概要についてお話しします。

米山奨学会のなりたちについて

ロータリーの米山記念奨学事業は、日本独自の事業で34の全地区が参加する地区合同プロジェクトです。1952年に事業が始まって以来、一貫して、日本で学ぶ外国人留学生を支援しています。その財源はすべてみなさんからのご寄付で成り立っています。

この奨学金の最大の特長は「世話クラブ・カウンセラー制度」です。米山奨学生にはロータリー活動に積極的に参加してもらい、交流することを大切にしています。

米山奨学会は、日本のロータリーの父、米山梅吉氏の名前を冠した事業です。と言いましても、梅吉さんの財産でつく

られたものではありません。米山氏は1920年に日本で最初のロータリークラブ、東京ロータリークラブを設立しました。米山氏が亡くなったあと、その功績をしのぶことができるような、有益な事業をやろうという声があがり、1952年、東京RCが「米山基金」の構想を発表しました。これは、アジアから優秀な学生を招いて学費を援助し、二度と戦争の悲劇を繰り返さないために「平和日本」を肌で感じてもらいたい、というものでした。その後、これがロータリークラブの共同事業となり、1967年には財団法人ロータリー米山記念奨学会が設立されました。

奨学生について

米山は、外国人留学生を対象とする民間の奨学生では、国内最大規模です。2023年度は、日本全国で900人が採用され、各ロータリークラブでお世話をいただいている。累計では世界131の国と地域から2万3,509人を支援しています。今年度新たに採用されたのはギリシャとポルトガルです。累計では中国、韓国、台湾が多いですが、ここ数年でベトナムからの留学生が急増しており、現役奨学生の中では中国に次いで多くをしめています。米山奨学生の国籍で、最も多くを占めるのは中国です。その理由は、まず大前提として、日本の大学などで学ぶ外国人留学生のうち47%、実に半数近くが中国の学生だということがあります。ただ、一つの国に偏ることなく色々な国の留学生を支援したいという思いはあるため、各地区では、各指定校に対し、「1か国30%以内に」などの要望を出して、多様な国から採用するよう努力をしています。

米山奨学生の採用は、全国統一の基準があります。

「将来の目標・留学の目的がきちんとしているかどうか」

「交流への熱意があるかどうか」

「人柄の良さ」

「コミュニケーション能力の高さ」

米山奨学生はお金に困っている留学生の経済支援ではありません。珍しい国だから、生活に困っているから、学校の成績が優秀だから。。。いずれも、ただそれだけでは米山奨学生に合格しないのです。将来、日本と世界とを結ぶ懸け橋となって国際社会で活躍し、ロータリーのよき理解者となる人材を育てる事業なのです。

寄付金

次に、寄付金についてですが、昨年度、2022-23年度の寄付金収入は14億2292万円と、その前の年度から7,700万円増加となりました。みなさまのご寄付はほとんどが奨学生に使われていますが、奨学生以外、例えば地区や世話クラブへの補助費、事業部門の職員人件費などにも一部使われています。米山奨学会は規模が非常に大きい

4つのテスト 言行はこれに照らしてから

01 真実かどうか

02 みんなに公平か

03 好意と友情を深めるか

04 みんなのためになるかどうか

事業であるにもかかわらず、管理費は支出のわずか3パーセントです。なお全体でみると、1億5400万円の黒字となっており、今後の奨学生事業のために積み立てつつ、計画的に払い出しています。

米山奨学会への寄付は大きく2種類です。クラブから会員数分を収める「普通寄付金」と、それ以外に、個人・法人・クラブから任意で出す「特別寄付金」です。「普通寄付金」は、かつて米山奨学会が財団法人を設立しようとした際、当時の文部省がなかなか首を縊にすってくれず、普通寄付金の確約を国内全クラブからもらい、安定財源とすることを約束したことにより、ようやく財団法人の設立の許可が下りたという経緯があるので、大切な役割を担っています。「特別寄付金」は任意でしていただくものです。こちらは個人やクラブ、法人の実績となり、表彰の対象となります。

また米山奨学会への寄付は寄付金控除の対象となり、確定申告をすれば、所得税、法人税の税制優遇を受けることができます。

地区別の個人平均寄付額ですが、昨年度の全国平均は16,960円で、その前の年度より989円アップしました。2660地区の一人あたりの平均は27,097円で、全国で2番目のご寄付をいただきました。尚、普通寄付金の金額は、ガバナーが掲げる目標額などに応じて、クラブで決定した金額となっています。

### 米山学友会

そして、皆さん支援した元奨学生たちは、どんな活躍をしているでしょうか。

巣立った奨学生のOB組織、米山学友会は日本に33、海外に10あります。2023年5月に、新たにベトナム南部(ホーチミン)を拠点とする「ベトナム南米山学友会」が設立承認されました。各学友会ではそれぞれ、親睦を深めたり、自主的に社会奉仕活動をしたり、ロータリーの活動に協力したりしています。

海外の米山学友会も頑張っています。台湾や韓国の学友会は毎年欠かさず、留学する日本人学生に対し、奨学生を支給しており、台湾学友会の奨学生を受けた日本人は、累計53人になりました。

巣立った奨学生たちは、個人としてもさまざまな形で活躍しています。教育や研究、NPOやNGO、起業する者などあらゆる分野にわたっています。その中にはローターアクトに入会したり、また、ロータリアンとしてクラブに入会する学友がいます。

現在、ロータリアンになった学友は292人おり、奨学生時代の世話クラブに入会し、クラブ会長や地区ガバナーにな

ったかたもいます。さらに米山学友が中心となって設立したロータリークラブは国内外に6つあるほか、衛星クラブも3つ設立されています。

米山へのご寄付のほとんどはロータリー会員からのものですが、実は学友も、この事業を支えてくれています。その寄付金は累計1億2,700万円にのぼります。

また、日本で大きな災害が起きるたびに、国内外の学友から義援金が寄せられています。

### ☆箕面まつり 出店報告☆

日時 9月30日、10月1日

両日とも13時から20時まで

場所 芦原公園

内容 スーパーポールすくい・グッズ販売

9/30, 10/1の二日間、当クラブは箕面まつりに出店いたしました。コロナ禍明けで開催されました昨年に比べて、やや来場者は少なかったようですが、毎年楽しみにしているお子様もおられ、沢山の方に来店いただきました。テント内は常時賑やかで、大変盛況のうちに終了いたしました。

